

## 令和2年度 玉野市工業振興会議 概要

- 1 日時 令和3年2月1日(月)10:00～12:00
- 2 場所 産業振興ビル 3F 技術研修室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり(資料添付)
- 4 概要 以下のとおり (進行 商工観光課 藤原参事)
  - 1 開会
  - 2 商工観光課 五老海課長 挨拶
  - 3 新任委員紹介
  - 4 委員選出(岡山大学研究推進機構 産学共創教授 高城 幸治)
  - 5 議事

### (1)「新型コロナウイルス感染症への対応状況(報告)」

#### 【商工観光課 大出係長内容説明】

- (吉川委員) 事業継続支援金の辞退理由は？
- (商工観光課) 一度申請があったものの資料が不足が多い。追加資料を要求したところ、応答がなかったものを辞退としている。
- (入江委員) 事業継続支援金の申請額が予算額より少ない理由は？
- (商工観光課) 予算額としては、玉野市の税務課へ確定申告をしている事業者を算出し、100%が申請した場合を想定して予算を計上した。
- (宮原委員) 対象となる売上高を出すときに、どこの政策も対前年度となっており、それだと対象に当てにくいという現状があり、申請に戸惑う状況がある。例えば、決算期間だと鮮明に出てくるが、対前年同月でいくと必ずしも下がったとまらないだろう。
- (商工観光課) 我々も、この政策を作る上で当たった国の持続化給付金の設定に合わせた対応策を取った。今回は幅広く支援をした。

#### 【玉野商工会議所 高島課長内容説明】

- (宮原委員) 玉野の事業者や企業の様子をどのように受け止めているか。アンケートや文字にならない状況が分かれば聞かせてほしい。
- (商工会議所) 小規模事業者は、持続化補助金や事業継続支援金の申請をしていることが多い。ただ、今後継続できるかは別。雇用調整助成金等の雇用関係の相談もある。
- (磯野委員) コロナ関係の廃業した事業者はいるか？
- (商工観光課) 市の創業支援金を交付した個人事業主が2件廃業したという報告を、事業主本人より受けた。飲食店や宿泊業はかなり厳しいという声広がっているという認識。

(高城会長) 相談対応の中で、助成制度への相談が1番多い。融資の相談は今のところ比較的少ないようだが、コロナの影響が長期的になってきているので、今までに受けた融資の返済にあたって様々な対応をこれから考えないとならないと思う。その相談の変化はあるか。今の相談から傾向など分かれば教えてほしい。

(商工観光課) 市では、セーフティネット保証、危機関連保証の認定を行っている。令和2年2月、3月頃から商業への部分、飲食業・サービス業・宿泊業からの申請が多くあり、夏以降、製造業・建設業へと広がってきたと思う。事業の運転資金に当てたり、受注が減少や、顧客への対応ができず売上が減少したなどの理由で申請をする事業者が増えている現状。

(高城会長) 今はまだ、次に向けて考えていくような状況ではないのですかね。

## (2)「玉野市の工業振興に係る基本方針」に対する取組状況及び、令和3年度産業(工業)事業概要

【玉野商工商工会議所 高島課長内容説明】

【一般財団法人 玉野産業振興公社 柴田係長内容説明】

【商工観光課 大出係長内容説明】

(池上委員) 貿易証明で、令和2年の発給件数が他のものと比べて、金属及び金属製品の落ち込みが激しい理由は、先ほど説明があったのか。

(商工会議所) エンジンパーツ(スペアパーツ)の落ち込みが激しい。

(池上委員) 取引相手企業の業績低迷等が原因か。そこまでは分からないか。

(商工会議所) 基本的にコロナ禍で物のやりとりが滞り気味のようだ。

(入江委員) 商工会議所ではリモート・ウェブでの対応等しているのか、もしあれば教えてほしい。

(商工会議所) 少し前の経理の相談は、税理士と行った。

(高城会長) 事業承継サポートだが、これはコロナが始まる前の課題となっているところだろう。表に出しづらい話になるかと思うが、工業の実数から見たら全体から比べ少数ではあるが、コロナがいろんな意味で事業承継に係る課題を出しているのでは。事業承継に関して事業者からの問合せ等の動きはあるか。

(商工会議所) コロナ禍でも事業を続けていけるように、コーディネーターと相談してやっていきたい。事業承継していけるようにつないでいきたい。

(高城会長) 県としては事業承継ネットワークという形で、様々なところで支援機関があるので、そういうところで密接な連携をとっていただきたい。今後廃業する事業者や、元々跡継ぎがとれない事業者などもあるの

で、注視していかなければいけない。

産業振興産業振興公社は、人材の育成をかなり強くやっているということだが、コロナの影響で企業を訪問できないのは厳しい。

職人塾の模擬インターンシップを一定の役割を終えたため終了とあるが、これは応募者数の減少等が関係あるのか

(産業振興公社) 模擬インターンシップに関しては、1つめに玉野市のインターンシップのほうに参加企業が増えているため、あえて高校生が職人塾のインターンシップに参加することがなくなった。2つめに、講師の高齢化。3つめに、模擬インターンシップの中には造船の工場見学やモデルシップ等の一連の流れがあったのだが、今後維持できなくなったという理由があり、分科会などの意見を聞いて中止にした。

(宮原委員) 工業系の企業に関しては、基本的に私たち企業がしっかりすることが必要だと考えているが、今後の造船系の動向によってはこれから玉野市の工業系に影響が出てくると思うので、これまで以上にご指導をいただきたい。

特に雇用関係に関しては、我々に課題を与えられていると思う。令和2年度は、コロナで人が集まるのは駄目ということで開催できていない「マリン玉野産業フェア」等だが、地域の雇用や今までやってきた施策を、このコロナの状況で、新しいあり方、やり方を新しい時代に向けて模索している途中。

どういう形で、この施策が実施できるのか大きな課題として受け止めてる。何かいいアイデア等あれば教えていただきたい今までのやり方のように集まるやり方ができなくなるのが大きな壁というか、一つの転換をせまられている。

(商工観光課) オンラインやITがなくてはならない時代となっている。令和3年度は、オンラインによるマッチング支援を具現化していきたいと思っている。

(高城会長) 特にリモートがなかなか進んでない。そういった業務がないという企業もあると思う。まるごと何かをするというのは難しいが、例えば、就職のための合同企業説明会も、すべてをリモートにするのではなく、できるところ、できないところの要素を切り出し、不安に思っている学生に個別のカウンセリングであるとか、そういった少人数は相対です、大勢で集まる場所はリモートですするなど、中身を精査して作っていくことが大切だ。大手の人材会社でも、そのあたりを考えてよくやっているようだ。むしろリモートだと、物理的になかなか出会えないところがすぐに出会える等のメリットもあ

るので、うまく組み合わせてユーザーに、メリットとなるように考えていけばいいだろう。

(宮原委員) リモートでの体制を整えるのが課題。玉野市で合同説明会等を企画するときに、そのシステムなり企業とのつながりをどう考えていくか、しっかり考えておかないといけない。シミュレーションをしておかなければならない。

(高城会長) 作業するためのオペレーションも細かくシミュレーションしておかないといけない。

(入江委員) リスタート応援事業補助金の取組を来年度も玉野市は行う予定なのか。国の第三次補正を通してこれから交付金など、まだ何も決まっていないかもしれないが、来年度も同じようなイメージか。

(商工観光課) 国の第三次補正については、まだ具体的な内容が届いていないので、昨年同様、かなり短い時間で支援策を確定するようになると思われる。昨年実施した経験を踏まえ、効果的な事例も見えているので、うまくを組み合わせ、しっかりと事業者を支援をしたい。

(大熊委員) 玉原企業団地は、今年で創設50年になる。創設には玉野市の支援が発端で、できあがった。

補助金をいただいても、その後の支援をどうするのか考えないといけない。補助金をたくさん出していただけののありがたいが、いずれ返さなければならぬと思っている。産業というか、国が本当に良くなっていけるように皆で頑張らないといけない。その中で、補助金をいただくばかりでなくて、受注が増えるような、仕事をいただくようなことを支援していただきたい。造船に関しては、非常に苦しい状況。造船を守るように、市で大きな声で要望を出していただきたい。市長だけでなく、市民全員で声を上げていただくことを補助金よりもやっていただきたい。市内には、産業機械等のローテクな会社が多く、造船ありき。従業員に関しては、市内だけでなく市外の従業員へも支援していただきたい。たくさんの方が働きに来てくれる街にしてほしい。

今後、ハイテク船にならなければいけないということで、脱炭素の船になっていくのに対して、我々鉄工所が必要なくなってくる可能性もあるわけだ。造船不況と、コロナでダブルパンチを受けてる。支援をお願いする

(商工観光課) 仕事の受注に関する件、今大事な意見をいただいた。

また、商工会議所が行う第3回のコロナに関するアンケートでどのような声があがってくるのか注視すべきと思う。そして、脱炭素に

関しては、今はまだ概要が出ていないが、情報を発信していく。今まで取引支援の実績がないような事業者にも対応したい。相談手法等は、市から財団や商工会議所を紹介できると思う。感染防止対策をしながら、令和3年度は企業訪問等できることは努めていきたい。県の経営支援課も造船の厳しい現状を、気にかけているが、玉野だけ、造船業だけを支援することはできない。全体を見ながら施策を検討すると言われている。市からも地元事業者が非常に厳しいという声は上げてる。何かいい支援策が出たら伝える。

(中谷委員) 私も答えを持ち合わせていないが、「産業育成」これをやらないと人が玉野に残らない。産業構造をどのようにしていくか。自然災害が少ないこの土地を生かすことが必要。

(高城会長) まったく新しいものを作るのではなく、今持っている玉野という土地の魅力であるとか、資源であるとか、そういったものを未来にどうやって生かしていくかということ。市民の皆様、産業界と一緒に、10年後、20年後に玉野をどういう街にしたいのか。進んでいく目標の意識を合わせる必要があり、一緒に未来に向けて歩んでいける道しるべや目標みたいな物を、今一度考えることがとても大事だ。本学でも、お役に立てることが何かあれば協力させていただきたい。

(磯野委員) 先ほど宮原委員がおっしゃったように楽しい街でないと若い人たちが集まってくれないと思う。今、我々が話していることは、今日言って明日よくなるというような物ではない。例えば、花火をやめようとか、お金がないことも分かるが、玉野に住んで、玉野って楽しいということを演出することが若い人たちを集めてくるのに大きな力となると思う。新しい玉野、住みよい玉野として、例えばアパートを借りて働く若者を幾ばくか支援するとか、なにか「玉野で働かっていいよね」という分かりやすい施策をしていただければ、今我々が話している中長期的なものとマッチングしていい方向にいくと思う。